

氏名 石橋 知也 Ishibashi Tomoya	役職 准教授 Associate Professor	専門分野 景観学 Landscape Engineering
------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------

1. 主な研究概要

① 都市形成に関わる歴史的な検討と政策提言

Historical study on urban formation and Urban policy recommendations

都市における政策の変遷や空間の変容を明らかにすることを通じて、今後の都市政策についての提言をおこなっています。具体的には、自治体の総合計画や議会議事録、都市を巡る種々の記事等の一次資料を対象に、分析や考察を進めています（一例を右図に示す）。

参考論文：1960年代の福岡市政の変遷にみる都市戦略のあり方に関する史的考察 (<https://doi.org/10.2208/jscejaic.70.1>)、1960年代に実施された「西日本都市診断」の内容分析およびその都市政策的影響 (https://doi.org/10.2208/jscejipm.75.6_I_287)、長崎市総合計画（1970-2016年）における斜面の捉え方の変遷 (https://doi.org/10.2208/jscejipm.76.5_I_495)



② 景観形成に関わる地域密着型実践的研究

Community-based practical research for landscape formation

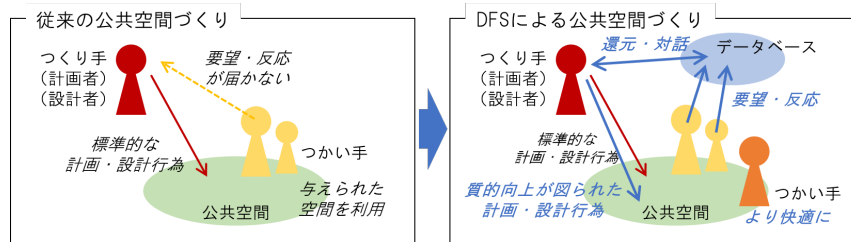
景観法施行後、全国各地域にて景観資源の保全・活用が推進されています。これを受け、重要な文化的景観の選定やより広域な景観の形成等に向けた地域密着型実践的研究をおこなっています。

③ 公共空間の質的向上を目指したデザイン・フィードバック・システムの構築

Development of a design feedback system to improve the quality of public spaces

公共空間の質を向上させるためには「つかい手」の要望に適切に応えることや反応を察知し柔軟に空間を改変するなどの工夫が必要になります。一方「つくり手（主に計画者（行政）と設計者（民間）」は標準的な計画や設計に関わる法律や指針を踏まえ空間をデザインするものの、多様な「つかい手」の要望や反応を十分に考慮できる仕組みは整っていないのが現状です。本研究では「つかい手」からの要望・反応等を実際の公共空間を対象に観察・収集し、それを「つくり手」に還元する仕組み（DFS：デザイン・フィードバック・システム）の基本的方法を確立することを目的としています。

将来的には、「つかい手」の意見を収集し「つくり手」に還元する一連の情報が蓄積されることによって、その情報を基に新規の公共空間の設計がなされる循環が期待されます。



2. キーワード

和文：都市形成史、文化的景観、広域景観、公共空間のデザイン

英文：Urban History, Cultural Landscape, Wide-Area Landscape, Public Space Design

3. 特色・研究成果・今後の展望

現在進行中のプロジェクトは以下のとおりです。

- ・長崎県波佐見町における重要文化的景観の基礎調査（文化庁および波佐見町との連携）
- ・長崎県環大村湾広域景観形成推進事業（長崎県および関連5市5町との連携）
- ・他、自治体との景観検討業務を多数おこなっており、実践と研究の橋渡しをしています。

researchmap： https://researchmap.jp/tomoya_ishibashi

研究室 HP： <https://www.cce.nagasaki-u.ac.jp/~kankyo/>

・日本都市計画学会九州支部ポスターセッションにて指導学生（大学院）が優秀賞を受賞「長崎市における都市公園の利用実態と空間的特徴に関する考察」

4. 社会実装への展望・企業へのメッセージ

- ・都市の将来像を描くことは自治体にとって不可欠な作業で、その際、歴史的な文脈に基づいて議論することでより実効性のある政策に結び付くと考えます。上記研究①はその支援となります。
- ・公共空間の質的向上は結果的にその都市や地域の価値を高めることにつながります。また、定住促進や観光振興への波及効果も期待され、特に地方都市において効果が大きいと考えられます。上記研究③の成果は各所の公共空間の質的向上に寄与します。